

もうさせない
いじめ 差別
無関心
広野小学校5年(前年度)
西中 月海さん

平成27年度
三田市人権標語入賞作品

NO.447 人権さんだ

平成 27 年度
三田市人権ポスター入賞作品



すずかけ台小学校6年(前年度)
髙橋 真穂さん

人権さんだは、みなさんに人権に関する気づきや情報などをお届けします。新たな発見や共感したことなどを含めてご意見、ご感想を人権推進課までお寄せください。
問い合わせ＝市民生活部市民文化室人権推進課
(559-5148 FAX 563-7776 eメールアドレス jinken_u@city.sanda.lg.jp)

「今」を生きるために

～私の人生に影響を与えた言葉～

悲しい時、つらい時、心が折れそうな時などに、名言や周囲の人から掛けられた言葉によって心が救われた経験や、掛けられた言葉によって今まで思いもしなかったような大切なことに気がついたということがありますか？
「言葉」は時にものすごく大きなパワーを発揮し、人生に大きな影響を与えてくれることがあります。
今号では、人との繋がりの中での「言葉」の持つ力について考えてみましょう。
平成27年度第35回全国中学生人権作文コンテストにおいて法務事務次官賞を受賞した作文と「人権さんだ」編集委員の体験談を紹介いたします。

ピアノを弾けない ピアノの先生

埼玉県 日高市立高萩北中学校一年
田島 光貴

ぼくの通っている音楽教室の校長先生は車イスで生活しています。三十歳を過ぎた頃、原因不明の病気を発症して以来、起き上がることもできない日が続き、何年もの間入院してしまいが治らず、自宅で療養することになったそうです。人がそばを通つただけで、全身に激痛が走るという難病でした。

病気になる前の先生は、音大でピアノを教えていました。一日十二時間以上も、毎日生徒さんとピアノにむかっていたのですが、少しも苦に思ったことはなかったそうです。ピアノを弾くことしかなかった人生の中から突然病気にピアノを弾くことを奪われてしまった先生でしたが、なんと、自宅でピアノ教室を始めてしまったのです！自分の病気を嘆くことより、「良かった。これで娘のそばに毎日いてあげられる。」と思ったそうです。ピアノを弾くことができない人がピアノ教室を始めるなんて普通の人には考えられません。最初の頃は、そうと知ると、話を聞きに

来た人達は皆、去って行ったそうです。近所の子ども達が通うようになって評判になり、二十年後には全国からたくさんの方が通う大きな音楽教室になっていました。

先生のすごい所は逆転の発想です。体が動かなくなったから、それまで忙しくしてできなかった研究を、家でじっくりする時間ができたと考え、絶対音感のプログラムを作り上げました。ほとんど寝たきりの体ですごい気力です。できないことを嘆くことなく、見方を変えてチャンスにしてしまおう。努力は並大抵のものではありません。

そんなすごい先生も、知らない人から見れば、車イスに乗った障がい者の老人です。道の端に停まっていた時に、じゃまだと言わんばかりに頭を叩いて通る心ない人がいるのだそうです。しかも、一度や二度ではないというのです。この人達は、人の中身を想像することができない人なのでしょう。ぼくは本当に驚き、なんとも言えない悔しく悲しい気持ちになりました。ぼくが今、ピアノを勉強しているのは、先生が認めてくれたおかげです。誰よりもできないことが多く、他の人と一緒に同じことができないぼくでしたが、先生は皆の前で、ぼくの演奏を「花マル満点。」と言ってくれました。それまでなぐさめられることはあっても、本当にはめられたことはなかったのだと思います。ぼくに向けられた心からの言葉は、小さかったぼくにも良く分かりました。先生が心から認めてくれたおかげで、ぼくはピアノが好きになりました。あの日の先生の言葉で、ぼくの人生は変わったと思っています。

先生は物を大切にしない(しずぎる?)人です。あなの開いたくつ下はいいに縫ってはいく。形ある限り、何年も同じ服を大切に着る。先生の旦那さんも同じように物を大切にしている人だそうです。ある日二人



で、音楽教室のお金をおろしに銀行へ行った帰り、後ろから来た男にいきなりお金の入った封筒を奪われてしまったことがあったそうです。数百万円もの大金が入っていました。あわてて交番に届けに行つたのですが、二人の身なりがあまりにも質素だったので、「そんな大金を持つていたはずがない。」とおまわりさんに信じてもらえなかったそうです。

人が人を判断する基準は何でしょう。見た目で判断していいのでしょうか。着ている服や家庭の環境、学歴、成績、人とうまく話せる人、人見知りな人、運動能力がすぐれている人、自信がある人、ない人、世の中にはいろいろいます。できることや持っている物が多い人は偉い人なのでしょうか？自分よりできないことが多い人を、自分より「下の人間」と思っていないでしょうか。人の価値は持っている物だけではないはずです。

校長先生は三年前の寒い冬の日、小さな風邪がもとで、突然亡くなってしまいました。先生が毎月一話ずつ書いてくれた「教室通信」には、先生が考えていたことや身の回りで起きたこと、先生が伝えたかった思いが書かれています。先生は亡くなってからも、いろいろのことを伝え、励ましてくれます。文章の力はすごいです。直接話を聞いたかのように心に残り、いつでも先生に会うことができるようです。

ぼくは思います。
価値ある人は、
上を向く気持ちのある人
人の心を動かすことのできる人(感動)
人の心を暖かくする人
本当に大切なことを知っている人
自分と他人を大切に思うことができる人
ぼくの音楽教室の校長先生は、ピアノを弾けないピアノの先生です。でも誰よりもピアノを弾くことの意味を教えてくれた最高の先生です。

編集委員の体験談から 「人生に影響を与えた言葉」

編集委員 A

私が、大学を卒業し就職をして、ちょうど5月の連休で実家に帰った時のことです。その時の私は、理想と現実のギャップに悩み仕事への不満をかかえていました。さっそく、両親にうまくいかない仕事への悩みを話しました。私は、内心両親から慰めの言葉を期待していませんでした。しかし、父の口から出てきたのは、「命とらわれるわけなく、そんなことでくじけていたら、どんな仕事もできないぞ。」という戒めの言葉でした。私ははっと我に返りました。そして、甘えていた自分が恥ずかしくなりました。あの時の父の言葉のおかげで、仕事を続けることができ、今では仕事が生きていくなっています。

編集委員 B

私は以前脳梗塞で倒れ入院。歩行困難となつたために、1カ月あまり車イスでの生活を初めて経験しました。バリアフリーの病院内ですら車イスでの移動はうまくいかず、歯がゆい思いをしました。段差が多く、多数の人が往来する街中では・・・と想像すると、常に車イス生活をされている人々の大変さを考えるようになりました。物事を正しく理解するには、実際に経験することが一番ですが、相手の身になって想像・疑似体験することにより、理解を深めることも出来ると思います。私はその手段として、人権講座や行事に積極的に参加し、常に「相手の身になって」という言葉を意識しながら、「自分はどうなんだ」との問いかけをしていくようになりました。

編集委員 C

私たちの地域では、クリン・デーを街の環境美化はもとより、地域の大人と子どもとの交わり、コミュニケーションを図る場として位置付け取り組んでいます。ある日のクリン・デーでの子どもとの会話です。私から小学生の児童に「掃除に出てきてくれてありがとう。何か困ったこと、怖いことがあれば大人の人に言ってみてね。」